

---

## 巻 頭 言



### 総合情報処理センターの近況

総合情報処理センター長 中 村 雅 英

かつて、特殊な人間が特殊な目的でのみ使用されていた電子計算機システムが、教育・研究さらには様々な業務において不可欠であるという認識を持つようになってから、既に多くの時間が経過しました。そして、そのような認識の変化とともに、秋田大学総合情報処理センターの業務は範囲を広げるようになり、重要度はさらに増してきました。この傾向は今後とも変わることがなく、センターの責務は更に大きくなるものと思われまます。センターの重要度は教職員ばかりでなく学生諸君にとっても同様で、センターで自習利用者する学生諸君の数は近年著しく増加しております。そして、2008年7月には1ヶ月当たりの自習利用者がのべ10000人を越え、センターとしてはうれしい悲鳴を上げています。

さて、最近のセンターの状況について簡単に触れさせていただきます。従来から問題となっていた本道地区の整備、および老朽化していた第一端末室の空調工事については既に着手しています。また、サーバ証明書発行プロジェクトも立ち上がり、近日中にはサーバ証明書の発行が可能になるものと思われまます。このように順調に進んでいるものもありますが、老朽化した学内ネットワークの更新という難問がいまだ未解決で、現在その対策に頭を痛めております。この問題は、そう簡単に解決出来るとは思えませんが、センターとしては今後とも、教職員および学生ユーザの皆様の要望にお答え出来るようなネットワークを維持出来るような努力を続けてゆきたいと考えております。今後とも、本センターに対してご理解とご協力を頂ければ幸いです。